

「サーカスのライオン」 川村 たかし  
 サークスといえは…

動物の曲げい 玉のり ピエロ 空中ブランコ  
 ライオンといえは…

肉食 百じゅうの王 けもの きげん  
 めあて

**大事だと思ふ一文を選び、これから学習することを知らう。**

大事だと思ふ一文⇨人物の気持ちが大きく変わったことが分かる一文

物語の中で、大事だと思ふ一文とそれを選んだ理由

- 「なあに、わしは火にはなれていきますのじゃ。」
- ・ 子どもを助けるために言った。
- 火の粉をふきあげていたライオンのすがたはどこにもなかった。
- ・ 男の子は助かったけどライオンのすがたはなかったから感動した。

**人物の気持ちを考えながら読もう**

サーカスの  
ライオン

人物の気持ちが大きく変わったことが分かる一文を選び、その理由を書く。

本の帯

教師のモデル

児童に親しみのある物語（教材）を読み、応用紙に大事な一文とその理由を書いて提示します。帯も実際に作り、本にかけて紹介するとよいでしょう。

学習計画表

児童と話し合いながら、応用紙に書き込んでいきます。応用紙は移動黒板などを利用して貼っておくといでしょう。

【1 / 8 時間目 指導略案】 使用するワークシート①  
 活動のねらい

大事だと思ふ一文を選ばせ、これからの学習の見通しをもたせるようにする。

1 「サーカス」「ライオン」について知っていることを出し合う。

○ サークスやライオンのイメージをとらえさせる。

2 本時のめあてを知る。

3 教師の読み聞かせを聞き、物語の中で大事だと思ふ一文とそれを選んだ理由を書き発表する。

○ 教師の読み聞かせを聞いたあと、物語の中で大事だと思ふ一文とそれを選んだ理由を書くことを伝える。選んだ一文に、サイドラインを引かせる。

○ 書いたことを発表させ板書する。

4 単元のめあてを知る。

○ 児童に親しみのある物語を例に挙げて、教師が書いた大事な一文とその理由を示す。（教師のモデルは、主人公の気持ちの変化を述べ、それについての自分の考えを記したものにしておく。）

○ 教師が作った本の帯を絵本につけて見せ、完成をイメージさせる。

○ 「サーカスのライオン」を読み取った後、一番大事だと思ふ一文とその理由を基に本の帯を作ることを提案する。

※ 本プランでは、表現方法を「本の帯」にしています。学級の実態に合わせて、「読書会」「紹介ポスター」などを選択してもよいと思います。

5 大まかな学習計画を立てる。

○ 児童と話し合いながら、完成までの大まかな計画を表に書く。

【評価】 学習の見通しをもち、本の帯を作ることに興味をもつことができる。（ア）

6 本時を振り返り、次時の学習内容について知る。